

# 槍



「国光」と銘があるこの槍は、全長 18 cm、素槍(直線的な細身の穂)で両鑢(鑢(しのぎ)とは、刀身の側面にある山高くなっている筋のこと)です。槍が戦いにおいて一番活躍した時代は、戦法が個人から集団での戦いに変化した安土桃山時代のことです。江戸時代には「槍術」呼ばれる武術が普及し、全国各地に流派が生まれました。

「国光」と銘を入れる職人で有名な人物が二人います。一人は鎌倉時代～南北朝時代にかけて山城国で活躍した「来国光」、もう一人は相州伝の祖といわれ、鎌倉時代後期に相模国で活躍した「新藤五国光」です。この二人が制作した多くの刀が国宝や重要文化財に指定されています。岩崎城収蔵の槍の由来は不明ですが、有名な二人が作者ではないと思われる「国光」と銘がある刀剣や槍は多く存在します。